アセスメント技術を高めるために

*～ケースマネジメントのためのアセスメント研修～*

講座№16102

こころの臨床・専門講座2

★**本講座は臨床心理士資格更新のための研修ワークショップとして要件が満たされた場合、日本臨床心理士**

**資格認定協会へ申請予定です。　承認された場合はホームページに掲載いたします。**

**期　　日：２０1６年 ７月１６日（土）**

**対　　象：**医療・保健・福祉の領域で、治療・教育・相談・指導等に携わっている専門家の方々、ならびに大学生・大学院生など本テーマに関心のある方

**定　　員：６０名**（定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください）

**受 講 料：７,０００円**（税込み）　　※昼食は各自お手配ください

**主　　催：公益財団法人　明治安田こころの健康財団**

**会　　場：明治安田こころの健康財団 講義室**　※詳細地図は受講証に添付いたします

**東京都豊島区高田３-１９-１０　  03-3986-7021**

ＪＲ山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

*■■■* ***ご企画・講義*** *■■■*

**大正大学人間学部臨床心理学科　教授　　　近藤　直司　先生**

まず、医療・保健・福祉領域のアセスメントを、『一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ちmechanismを構成し（まとめ上げ）、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること』と定義しておきたいと思います。アセスメントの技術を高めるためには、情報の収集と整理（インテイク）－評価（アセスメント）－支援計画（プランニング）という３つの作業過程を意識すること、とりわけ「情報」と「評価（アセスメント）」の違いを明確に意識することが決定的に重要です。また、『生物－心理－社会モデル』を理解し、使いこなすことによって、包括的でバランスのよいアセスメント技術が身に付くと思います。

本講座では、アセスメントの力量を高めるために取り組むべき課題として、とくに「日常業務におけるケースレポートの方法」を重視し、講義に加えて、自分がケースをレポートする、他の人のレポートを聴くというグループワークによって構成します。また、各機関・職種の役割を明確にできるようなネットワーク型のケース検討会議を成功させる技術についても取り上げます。

守秘性には充分に配慮しますので、ケースをレポートできる方に受講していただきたいと思います。医療、保健、福祉、心理などの専門職で、アセスメント技術に問題意識を感じている方、ケース検討会議の進め方に迷っている方、後進の指導やチームのレベルアップについて考えている方などにお勧めしたいと思います。

【 企画講師　　近藤 直司 】

＜参考図書＞「アセスメント技術を高めるハンドブック第２版」（近藤直司著）明石書店, 2015

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| *プログラム* | 時　 間 | テ　ー　マ |
|  9:30～10:30 | アセスメントの基本的枠組みを理解する　　　　 |
| 10:45～12:45 | グループワーク アセスメントとケースレポートの実際  |
| *12:45～13:45* | *昼　　 食　（各自でおとりください）* |
| 13:45～14:45 | 有効なケース検討会議の進め方（1） 　　　　　　 |
| 15:00～16:00 | 有効なケース検討会議の進め方（2）グループワーク  |
| 16:15～17:00 | 質疑応答　　　　 |

*★事務局から★*

昨年度夜間講座で開催した講座をご要望に応え、今年度は集中講座でご企画いただきました。受講申込の方には予め課題をお送りいたします。予習を通して、具体的なアセスメントへの理解を深め、持ち帰ってそれぞれの現場で使っていけるようにしていただきたいと思います。アセスメント力アップのための具体的なアドバイスを直接いただくチャンスです。ぜひご参加ください。